

2024年2月14日

各位

会社名 株式会社 ブイキューブ  
代表者名 代表取締役会長 間下 直晃  
(コード番号: 3681 東証プライム)  
問合せ先 取締役 CFO 経営企画本部長 山本 一輝  
(TEL. 03-6625-5011)

**特別損失（減損損失）の計上及び繰延税金資産の取り崩し、  
業績予想と実績との差異、財務制限条項への抵触の見込み、  
並びに役員報酬の減額に関するお知らせ**

当社は、2023年12月期決算において、特別損失（減損損失）の計上及び繰延税金資産の取り崩しを行い、2023年11月14日公表の2023年12月期の通期業績予想と本日公表の実績に差異が生じるとともに、純資産が減少したことにより金融機関と締結した借入契約における財務制限条項に抵触する見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、2023年12月期における業績を踏まえ、経営責任を明確にするため、役員報酬の減額を実施することといたしました。昨年秋以降からの希望退職の実施、仕入れ等のコスト削減策の実施、不採算事業の縮退・撤退等の経営基盤の再構築を進め、2024年12月期における確実な業績回復とその後の成長を図ってまいります。

記

1. 特別損失（減損損失）の計上及び繰延税金資産の取り崩し

(1) ソフトウェア

V-CUBE ミーティングは汎用ウェブ会議領域の主力製品として長期に渡って当社の事業を牽引してまいりましたが、2017年の戦略変更により Zoom の販売の開始と経営資源をイベント DX 事業、テレキューブ等のサードプレイス DX 事業、映像技術の SDK 提供等に振り向け、既存の V-CUBE ミーティングは長期的なサンセット（サービス終了）と Zoom への入替を図ってまいりました。この戦略に基づき、低下する同製品の収益性の傾向を踏まえ、2022年12月期にソフトウェアの一部の帳簿価額を回収可能価額まで減損いたしました。2023年12月期においても、ソフトウェア資産の将来の回収可能性を再度検討した結果、その一部を減損することといたしました。

また、2022年12月期と同様に、特定の製品の新しいバージョンのリリースに伴ってソフトウェア資産のうち旧バージョンの開発に相当する部分や、今後の十分な収益性が見込まれないソフトウェア資産についても併せて減損処理を行うことといたしました。

以上により、ソフトウェアの減損損失として531百万円を計上いたしました。

併せて、2023年12月期の利益水準と今後の将来見込みを踏まえて繰延税金資産の回収可能性について検討した結果、繰延税金資産の一部を取崩し、法人税等調整額173百万円を計上いたしました。

(2) 連結子会社 Xyvid, Inc.

当社の連結子会社である Xyvid, Inc.（以下、「Xyvid 社」）において、今後の計画を見直した結果、当初想定していた収益の達成が困難であると判断したことから、同社に係るのれんの全額3,223百万円を減損損失として計上いたしました。

併せて、Xyvid 社の課税所得の実績や将来見込みを踏まえて米国会計基準に従って繰延税金資産の全額を取り崩し、法人税等調整額1,178百万円を計上いたしました。

当社が2021年6月に買収した、北米でイベントDX事業を展開するXyvid社は、2022年12月期上期までは大きな成果を残し当社グループの成長に貢献いたしました。新型コロナウイルスの収束によるリアル回帰の影響を日本に比べて大きく受けました。オンライン及びハイブリッドイベントを提供するXyvid社は2022年12月期下期より業績は想定を下回り推移するとともに、買収時に発生した重いのれんの償却費負担が当社グループの収益を圧迫する結果となりました。

2023年12月期の期末時点で、新たなCEO・CFOの採用や組織のスリム化、営業体制の強化を完了し、急激なインフレや人手不足等でリアルイベント開催が難しくなる社会環境も寄与して大企業中心に新規顧客を獲得しており、2023年12月期下期は昨年同期比で売上成長しております。引き続きXyvid社は当社グループの中で重要なグループ企業として中長期的な成長を目指すとともに、市場規模の巨大な北米での当社グループの拡大へ取り組んでまいります。

## 2. 業績予想と実績との差異

### (1) 2023年12月期の連結業績予想と実績との差異

(2023年1月1日～2023年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	調整後 EBITDA	調整後 営業利益	営業利益
前回発表予想 (A)	11,500	1,570	475	100
実績値 (B)	11,084	1,289	240	△156
増減額 (B-A)	△416	△281	△235	△256
増減率 (%)	△3.6	△17.9	△49.5	—
(参考) 前期実績 (2022年12月期)	12,229	1,945	1,025	675
	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益	
前回発表予想 (A)	10	△276	△11円37銭	
実績値 (B)	△275	△5,623	△231円68銭	
増減額 (B-A)	△285	△5,899		
増減率 (%)	—	—		
(参考) 前期実績 (2022年12月期)	612	84	3円49銭	

### (2) 差異の理由

売上高においては、2023年8月10日に業績予想修正いたしました。2023年12月期下期においてもイベントDX事業における国内製薬領域、人材領域及びXyvid社の低調、サードプレイスDX事業における公共空間向けテレキューブの新規設置台数の減少が継続し、通期連結業績予想を下回りました。

利益面においては、売上未達のほか、Xyvid社単体の営業損失、海外製品仕入や海外子会社ののれんの償却費等において円安の影響を受けました。また、コスト削減や販売価格の値上げ等の経営合理化施策に取り組むものの、施策による収益性の改善は主に2024年12月期以降に効果を生むため、営業損失、経常損失の結果となりました。

「1. 特別損失(減損損失)の計上及び繰延税金資産の取り崩し」に記載した減損損失等により、親会社株主に帰属する当期純利益は、通期連結業績予想との間に大幅な差異が生じました。

### 3. 財務制限条項への抵触の見込み

当社グループは、当連結会計年度において連結子会社 Xyvid, Inc. ののれんの減損等により、親会社株主に帰属する当期純損失を計上いたしました。これにより純資産が減少し、金融機関と締結した借入契約における財務制限条項に抵触する見込みとなりました。当該財務制限条項が適用された場合、資金繰りに影響が生じ、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象が存在しておりますが、借入先の金融機関に対しては、期限の利益の喪失に関わる条項を適用することなく、当該契約を継続するよう申し入れております。

事業面においては、2023 年に実施した経営合理化施策に引き続き、原価改善を含めた徹底したコスト削減や、自社開発プロダクトの選択と集中の施策を進め、収益性をより一層改善した経営基盤の再構築を推進してまいります。また、財務体質の安定化を図るべく、金融機関と協議の上で更なる財務施策を検討・実行してまいります。

事業面及び財務面で以上の施策を講じることにより、当面の資金状況は安定して推移する見通しです。

以上の事から、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

### 4. 役員報酬の減額

2023 年 12 月期の業績を真摯に受け止め、その経営責任を明確にするため、以下のとおり役員報酬の減額を行うこととしました。

#### (1) 役員報酬減額の内容

代表取締役会長	月額報酬の 30%
代表取締役社長	月額報酬の 25%
取締役副社長	月額報酬の 20%
取締役 3 名	月額報酬の 15%
監査等委員を含む社外取締役 6 名	月額報酬の 10%

#### (2) 対象期間

2024 年 2 月より 2024 年 3 月まで (2 か月間)

以 上